

氏名 上 田 裕 之

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 甲 第 696 号

学 位 授 与 の 日 付 昭 和 63 年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 医 学 研 究 科 内 科 系 放 射 線 医 学 専 攻

( 学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当 )

学 位 論 文 題 目 床 面 附 着 グ ラ ム 陰 性 菌 の 選 択 的 検 出 培 地 の 検 討

論 文 審 査 委 員 教 授 新 居 志 郎 教 授 矢 部 芳 郎 教 授 大 森 弘 之

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

グラム陰性菌選択培地として通常 MacConkey 培地 (MaC 培地) が用いられる。しかし、実際の床面などのグラム陰性菌は、乾燥などにより damage を受け、悪条件下にある。そのため MaC 培地中に 0.1% 含まれる胆汁酸に対する感受性が増すものと思われ、ほとんど MaC 培地で増殖しない。そこで床面からのグラム陰性菌検出に適した培地を考案検討した。検討培地は胆汁酸成分の Desoxycholate (DOC) を 0.03% Drigalski (BTB-Lactose Agar) 培地に加えたもの (D-D 培地) である。これを用いて、ガラス板を使ったモデル実験及び実際の床面からのグラム陰性菌検出率を検討した。その結果、モデル実験、実際の床面及び手指においても MaC 培地よりも D-D 培地の方が明らかに良好な回収率が得られた。したがって院内感染予防等の目的で物体表面、医療従事者の手指などの汚染調査を行なう際、グラム陰性菌の検出にはこの D-D 培地が有用であると思われる。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は院内感染の予防を目的として、床などに存在するグラム陰性菌の検出に適した培地を考案し、実用的見地から種々検討したもので、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。